

2021年3月新着情報



海外／国際機関で行われている／行われた興味深いイベント／ 取り組み

- **【コロナ関連】**国連経済社会局(UNDESA):EGM on Building Forward Better for Older Persons post COVID-19(高齢者により優しいポストコロナ社会構築に関する専門家会議(3月2-5日、オンライン))
 - <https://www.un.org/development/desa/ageing/meetings-and-workshops-2/expert-group-meeting-on-building-forward-better-for-older-persons-post-covid-19-2-5-march-2021.html>
(発表動画やペーパーへのリンクあり)
 - コロナパンデミックによって世界は激変し、その影響は長期化すると見られている。またこの危機によって格差が拡大したほか、世界経済や社会的保護システムの脆弱性なども浮き彫りとなった。しかし一方でこの危機は、異なった未来、つまりより包摂的な地域や持続可能な世界を構築するチャンスももたらしている。コロナ禍の中で高齢者は特有の課題に直面しており、各国が今後復興へ向けて取り組む中で、引き続き対応を必要としている。この専門家会議では、ポストコロナの復興策で高齢者の対応・包摂・参加を保証する方法について、国際的な専門家や加盟国代表者たちが議論した。3月2-5日の4日間にわたりオンラインで行われたこの会議は、主に以下のセッションから成り、上記ページでは発表の一部(動画やペーパー)を閲覧可能。
 - ◇ ポストコロナにおける経済・社会的包摂
 - ◇ 高齢者への医療サービス強化に向けた COVID-19 からの学び
 - ◇ ポストコロナにおける開発および人道支援



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **欧州:**各国の認知症戦略に関する最新情報をまとめたページを Alzheimer Europe が立ち上げ(2/10)
 - <https://www.alzheimer-europe.org/News/Alzheimer-Europe/Wednesday-10-February-2021-Alzheimer-Europe-updates-website-with-information-on-national-dementia-strategies>
 - <https://www.alzheimer-europe.org/Policy/National-Dementia-Strategies> (各国戦略紹介 HP)
 - 欧州各国で、認知症戦略の策定や実施に多くの変更が見られることを受けて、Alzheimer Europe では HP を刷新し、各国の最新情報をわかりやすくまとめた。上記の紹介ページでは、各国の情報について統一したフォーマットを用いており、主に「はじめに(戦略の開始時期、背景情報など)」と「戦略の概要」で構成される。同ページではまた、各国の戦略(過去版も含む)をダウンロードできるほか、追加の関連情報へのリンクも貼られている。

- **【コロナ関連】英国・米国：コロナワクチン接種を終えた高齢者の旅行需要が増加**
 - <https://www.jiji.com/jc/article?k=2021011700210&g=int>（日本語記事）
 - <https://www.bizjournals.com/bizwomen/news/latest-news/2021/02/vaccinated-seniors-lead-surge-in-travel-plans.html?page=all>
 - <https://www.nytimes.com/2021/02/17/travel/seniors-covid-vaccine-travel.html>
 - <https://www.virtuoso.com/travel/articles/82-of-travelers-say-theyre-more-ready-to-travel-in-2021>
 - <https://www.today.com/video/spring-break-gets-a-new-look-from-vaccinated-seniors-101826117619?playlist=mmlstodayarchivistuesday-nnd>（動画）
 - 各国では COVID-19 のワクチン接種が高齢者を優先して行われており、これに伴い英国や米国では、高齢者の旅行需要が増加している。2020 年 12 月より高齢者等を対象に予防接種を開始した英国では、欧州旅行大手で最近あった予約のうち半数が 50 歳以上からだった。旅行時期は 7-10 月が大半。また英長距離バス会社によると、2021 年 1 月前半における 65 歳以上のツアー予約は、前年同期比で 185%増加した。また米国でも、ハワイやフロリダ等のホテルやリゾートで高齢者の予約が大幅に増加しているほか、2021 年 1 月に行われた調査でも、高齢者の間で特に高い旅行への意欲が示された。

- **【コロナ関連】英国：3 月 8 日よりケアホーム入居者面会が可能に(ただし各入居者につき 1 名のみ) (2/20)**
 - <https://www.gov.uk/government/news/care-home-residents-to-be-allowed-one-visitor-as-part-of-cautious-easing-of-lockdown>
 - 英国では段階的なロックダウン緩和策の一環として、3 月 8 日よりケアホーム各入居者につき 1 名の面会が可能となる。入居者は面会者 1 名を指名し、面会者は事前に検査を行う。面会時の防護具着用が義務付けられ、濃厚接触はできない。感染者の総数は依然多いものの、新規感染者数は減少傾向にある。英国ではまた、全てのケアホーム入居者がすでにワクチン接種を終えている。屋外やスクリーン越しでの面会は、ガイドラインに基づいて引き続き行われ、この方法であれば複数の面会が可能である。面会者には検査や感染予防策が義務付けられており、感染対策をとりながら入居者やその家族にとって大切な面会の機会を提供し、両者のバランスを図っている。

- **英国：「エイジ・ポジティブ」な高齢者のアイコンが無料で利用可能に(2/25)**
 - <https://www.ageing-better.org.uk/news/range-free-use-age-positive-icons-launched-replace-stereotypical-symbols-ageing>
 - <https://ageingbetter.resourcespace.com/pages/home.php>（訳注：アイコンを含む様々な高齢者の写真紹介ページ・・・のはずですが、3/10 現在まだアイコンはアップされていません。）
 - これまで広く使われてきたステレオタイプ的な高齢者の描かれ方に代わる「エイジ・ポジティブ」なアイコン 10 種類を、Centre for Ageing Better が無料で提供する。これらの新たなアイコンは、昨年行われたコンテストの一環として作成されたものである。SwaG Design が作成した受賞アイコンでは、

道路標識をモチーフにして、踊る高齢夫婦を描いている。新たなアイコンは、WHO によるエイジフレンドリーコミュニティの 8 領域(交通、住宅、社会的包摂など)を基に、高齢者と協議の上でデザインされており、高齢期の多様な生活を前向きかつ現実的に示すことを目指している。上記の画像紹介ページではアイコンの他にも、無料で誰もが利用できる高齢者の前向きなイメージ写真も掲載している。

- **【コロナ関連】米国:コロナワクチン接種を「売り」にするリタイアメントコミュニティ(2/18)**
 - <https://www.nbcnews.com/health/aging/some-retirement-communities-lure-new-residents-promise-covid-19-vaccines-n1258197>
 - COVID-19 による死亡者数が増加する一方でワクチンが不足する中、ワクチン接種をマーケティングの一環として用いるシニア住宅が出てきている。シニア住宅では 2020 年、記録的な入居率低下に直面しており、入居者募集のツールとしてワクチン接種を組み込む住宅が登場したのだ。これらの施設は需要に応えているだけだ、と述べる人がある一方で、倫理的に問題があるという意見も見られる。
- **米国:2020 年上半期における米国の平均寿命が 1 年短縮:コロナの影響か(2/18)**
 - <https://www.npr.org/2021/02/18/968791431/american-life-expectancy-dropped-by-a-full-year-in-the-first-half-of-2020>
 - <https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-56164593> (日本語記事)
 - <https://www.asahi.com/articles/ASP2M6VX3P2MUHBI019.html> (日本語記事)
 - <https://www.cdc.gov/nchs/data/vsrr/VSRR10-508.pdf> (CDC 報告)
 - 米国立衛生統計センターによると、米国では 2020 年上半期の平均寿命が 77.8 年となり、前年から 1 年短くなった。国内の死者が 50 万人に迫る新型コロナウイルスが影響しており、米メディアによると第 2 次世界大戦中以来の下げ幅という。また黒人やヒスパニックなど人種マイノリティーで大きく下がっており、人種間格差が浮き彫りになった。センターによると、平均寿命は男性が 75.1 年(前年比 1.2 年減)、女性が 80.5 年(同 0.9 年減)だった。20 年秋以降は新型コロナの感染が悪化したため、通年ではさらに短くなるとみられる。米国では、マイノリティーは飲食店や公共交通機関など在宅勤務が難しく、感染リスクが高い仕事に就く割合が高く、医療へのアクセスも十分でない。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど

- **西太平洋地域:Regional action plan on healthy ageing in the Western Pacific(西太平洋地域におけるヘルシーエイジングの地域行動計画)(WHO 計画)**
 - <https://www.who.int/publications/i/item/9789290619352> (全文へのリンクあり)
 - 世界保健機関(WHO)の西太平洋地域委員会が 2020 年に承認したこの計画では、世界的に

加速する人口高齢化を踏まえ、その準備を加盟国が早期から行うのに役立てることを目指している。人々が生涯にわたって健康的に年を重ね、適切な地域の支援を受けられ、そして社会へ有意義な貢献を行えるよう、この行動計画では以下 5 点の目標を掲げ、健康と社会面での変革に重点を置いている。

- ◇ 目標 1: 人口高齢化の影響に関する理解に基づいて、ヘルシーエイジングを推進するために社会全体を変える
- ◇ 目標 2: 生涯にわたる個々の健康ニーズへ応えられるよう、必要な医療やそれ以外のサービスをコーディネートされた形で提供することで、医療システムを変える
- ◇ 目標 3: それぞれの高齢者のニーズにあった地域密着型の統合ケアを提供する
- ◇ 目標 4: ヘルシーエイジングを推進するために、技術および社会的なイノベーションを促進する
- ◇ 目標 5: プログラム、サービスおよび政策への参考となるよう、モニタリングや研究を強化する

● **西太平洋地域: 西太平洋地域における経済および保健医療財政に対する人口高齢化の影響について**

- https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/project-details/EURO (対象 6 か国それぞれに関する英語報告書へのリンクあり)
- https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/health_expenditures_western_pacific (日本に関する日本語報告書へのリンクあり)
- 平均余命の伸びと出生率・死亡率低下の結果、世界規模で人口が高齢化しており、そこから生じる経済、財政、社会の課題が提起されている。人口高齢化によって、労働年齢人口の減少による経済成長の鈍化と、保健医療および社会福祉の需要の増加がもたらされ、その介護需要を通じて、ケアシステムと高齢者の家族に経済的圧力がかかることを、政策立案者は懸念している。人口高齢化により予測されている結果のいくつかは、加齢とともに健康と生産性が必然的に低下するという仮定に基づいているが、健康面、機能面における能力は多様である。さらに、政府は不利な結果を避けるための多くの政策ツールを持っている。欧州保健制度政策観測所は、WHO 神戸センターおよび WHO 西太平洋地域事務局と協力し、西太平洋地域 6 か国(ベトナム、モンゴル、韓国、日本、オーストラリア、ニュージーランド)を対象に、①年齢と人口の構成が保健医療支出の傾向に与える影響および、②人口高齢化による経済的な効果に健康や障害などの要因が及ぼす影響について分析を行った。この地域には、世界で最も急速に高齢化が進んでいる国々が含まれ、世界の 65 歳以上人口の 1/3 以上を占めている。国別レポートでは、労働年齢後期の人の健康増進が、経済にどのように貢献するかを調査している。また、人口の年齢構成の変化が将来の保健医療費の支出パターンにどのように影響するかを考察している。シミュレーションにより、労働年齢にある人々の健康の改善が、GDP の成長の増加につながる可能性があると予測された。この結果は、複数の異なる国の状況でのシミュレーションにおいても認められた。本研究は、人々が健康を維持したまま年を取ることが可能であり、人々の健康的な高齢化が経済にも貢献できることを示している。

● **英国: Future options for housing and care: Improving housing that facilitates care and support for**

older people (住宅とケアの将来的な選択肢: 高齢者のケアや支援を促進する住宅の改善) (Social Care Institute for Excellence ディスカッションペーパー)

- <https://www.scie.org.uk/housing/role-of-housing/older-people>
- <https://www.scie.org.uk/files/housing/future-options-for-housing-and-care.pdf> (全文。無料でダウンロード可能ですが、登録が必要です。ご入用であればファイルを保存してありますのでおっしゃってください。)
- このペーパーは、「ケアと支援の未来における住宅の役割に関する委員会」が作成した最初の報告書である。当事者や部門関係者と共同で作成したこの文書では、同部門が直面する主な課題、今後のビジョン、さらに検討すべきと思われるアイデアがまとめられている。2020年10月に発足した同委員会では、高齢者向けの住宅や支援の選択肢拡大に向けたブループリントを作成予定であり、最終報告は今年夏に発表予定。この報告書で挙げられた、ケア付き住宅のビジョンは主に以下の通り。
 - ◇ 適切な場所・地域
 - ◇ 自立の推進
 - ◇ 本人や関係性を中心に据えたケア
 - ◇ ストレングス・ベース
 - ◇ 選択やコントロールを可能に
 - ◇ 平等性の推進
 - ◇ 職員の質確保
 - ◇ コプロダクションと共同での意思決定

● **英国: What we want: Future-proofing retirement housing in England (私たちが望むこと: 将来安心なイングランドのリタイアメント住宅) (2/18、ILC-UK 報告書)**

- <https://ilcuk.org.uk/what-we-want-future-proofing-retirement-housing-in-england/>
- <https://ilcuk.org.uk/wp-content/uploads/2021/02/ILC-What-we-want-FINAL-5.pdf> (全文)
- 将来的な介護ニーズに備えた住宅としてリタイアメントコミュニティは、高齢期の住宅とケアに対応する解決策の一つである。しかし英国では、65歳以上でケア付住宅に暮らしているのはわずか0.7%であり、このセクターには現在も成長の余地が大いにある。この報告書では今後20年間を見据えて、リタイアメントコミュニティの需要に関連する様々な動向をまとめた。例として以下が挙げられる。
 - ◇ 人口構造の動向(人口高齢化)
 - ◇ 経済的動向(現在68-77歳で持家の方は、住宅の価値で最も恵まれた位置づけ)
 - ◇ 人々の嗜好の重要性(一括りではなく個別化されたアプローチ、リタイアメントコミュニティに対する人々の意識を変化させる上での政策の役割)

● **英国: Health matters: Why we must commit to delivering prevention in an ageing world (健康の重要性: 高齢化社会でなぜ予防に取り組むべきか) (2/26、ILC-UK 報告書)**

- [https://ilcuk.org.uk/health-matters-why-me-must-committ-to-delivering-prevention-in-an-a](https://ilcuk.org.uk/health-matters-why-we-must-committ-to-delivering-prevention-in-an-a)

[geing-world/](#)

- <https://ilcuk.org.uk/wp-content/uploads/2021/02/ILC-HEALTH-MATTERS-RPT.pdf> (全文)
- 予防の様々な効果が知られている一方で、実際の予防の取り組みは遅れが見られ、危機の際には予防策が最初に切られる状況となっている。この報告書では、高齢化社会とコロナパンデミックを背景として、上記のような現状を変える必要性についてまとめている。分析の結果、G20 加盟国のすべてで過去 20 年間の健康アウトカム改善が示されたものの、その改善率に違いが見られた。健康寿命が最も大幅に改善した国は、医療支出の割合が高かった。これはつまり、国が個人の費用バリアを抑える働きをしているということであり、このような取り組みが長期的な予防策の基盤となりうる。

- **英国: Slipping between the cracks? Retirement income prospects for Generation X(見過ごされた? X 世代の退職後所得) (3/2、ILC-UK 報告書)**

- <https://ilcuk.org.uk/slipping-between-the-cracks/>
- <https://ilcuk.org.uk/wp-content/uploads/2021/03/ILC-SLIPPING-BETWEEN-THE-CRACKS-3rd-March-Final.pdf> (全文)
- 1965—1980 年生まれの X 世代が働き始めた時期は、確定給付年金の恩恵を受けるには遅すぎた一方で、職域年金への自動加入の恩恵を受けるには早すぎるタイミングであった。したがって政策立案者による迅速な対応がなければ、この世代の退職後所得は不十分となりうる。代表性のある全国調査に基づいたこの報告書では、X 世代について以下のような結果が示された。
 - ◇ 1/3 近くは、十分な所得がない状態で退職を迎えるリスクに直面している。
 - ◇ 1/5 は、コロナパンデミックによって貯蓄の額を減らしているか、貯金を取り崩している。
 - ◇ 57%は、退職後に向けて貯蓄額を増やしたいが、不安定な収入など様々な問題によってできない状況。

今後 10—27 年にわたってこの世代の退職準備を支援するために、ILC-UK および Phoenix では以下を目指した提言を行っている。

- ◇ X 世代の貯蓄支援(例: 拠出率アップ)
- ◇ 就労生活の延長支援
- ◇ 特に大変なグループ(賃貸住宅在住、自営業、低賃金、マイノリティー等)のニーズ対応

- **英国: Delivering prevention in an ageing world: Democratising access to prevention(高齢化社会での予防策提供: 予防へのアクセスの民主化) (3/8、ILC-UK 諮問書)**

- <https://ilcuk.org.uk/democratising-access-to-prevention-consultation-paper/>
- <https://ilcuk.org.uk/wp-content/uploads/2021/03/Date-change-ILC-Delivering-Prevention-1-1.pdf> (全文)
- ILC-UK では 1 年間にわたり、世界各国や国際会議などで予防に関する対話を行ってきた。予防の効果は明らかであり、その取り組みに「遅すぎる」ということはない。しかし、長きにわたる文化・経済的分断などによって、予防サービスへのアクセスには格差があり、この問題はコロナパンデミックに

よって更に浮き彫りとなった。この状況を変えるために ILC-UK では、予防プログラムの一環としてこの諮問書を作成し、幅広い意見を求めることとした。これまでの医療および政策関係者との対話に基づき、この諮問書では、予防策提供の民主化に向けた主な要件として以下 5 点を挙げている。

- ◇ 予防策の利便性向上
- ◇ コストのバリア撤去
- ◇ 多様なニーズに合わせた予防
- ◇ コプロダクションを通じたヘルスリテラシーの向上
- ◇ エイジズムへの対応

上記ページには諮問書アンケートへのリンクがあり、そこで読者の意見を収集している。アンケート締切は 4 月 9 日(金)。

- **アイルランド: Toolkit for Arts & Creativity in Care Settings (ケア現場でのアート&創作活動ツールキット)**
 - <https://ageandopportunity.ie/toolkit-for-arts-creativity-in-care-settings/>
 - <https://ageandopportunity.ie/wp-content/uploads/2021/02/A-Toolkit-for-Arts-and-Creativity-in-Care-Settings.pdf> (全文)
 - 長年にわたってケア現場でのアートプログラムに力を注いできたアイルランドの高齢者団体 Age & Opportunity が、現場向けの活動ツールキットを発表した。全体的な注意事項や準備に関する情報に加え、具体的な創作活動(作文、ダンス、劇、写真、音楽)についても詳細なステップや具体的な取り組み情報へのリンクが掲載されている。

- **米国: 2021 ALZHEIMER'S DISEASE FACTS AND FIGURES SPECIAL REPORT: Race, Ethnicity and Alzheimer's in America (2021 年アルツハイマー病の現状: 特別報告「アメリカにおける人種、民族とアルツハイマー」) (3/2)**
 - <https://www.alz.org/news/2021/new-alzheimers-association-report-examines-racial>
 - <https://www.alz.org/media/Documents/alzheimers-facts-and-figures.pdf> (全文)
 - 2021 年のアルツハイマー病報告書では、米国のアルツハイマー病に関する詳細情報(罹患率、死亡率、ケア費用、介護者への影響など)を掲載している。加えて今回は初めて特別報告として、様々な人種や民族の観点から見たアルツハイマー病や認知症のケアを取り上げた。白人以外の人たちは、認知症ケアへのアクセスでより多くのバリアを想定・経験しているほか、医学研究に対する信頼度も低く、また自分たちの民族や人種の背景を理解している医療専門職へのアクセスに難しさを感じていた。

- **オーストラリア: The quality of care experience and community expectations (ケアの経験の質および地域の期待) (2/16、王立委員会研究論文 20)**
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/high-quality-aged-care-needed-meet-australians-expectations>

- <https://agedcare.royalcommission.gov.au/publications/research-paper-20-quality-care-experience-and-community-expectations> (全文へのリンク)
 - フリンダース大学が作成したこの新たな報告書では、2020年に実施された3つの王立委員会向け全国調査(訳注:以前の海外ニュースで紹介済)データを用いて、高齢者ケアの総合的改革や地域の強力なコミットメントの必要性を浮き彫りにしている。そのうち一つの調査によると、自らのケアニーズが常に満たされていると感じていたのは、施設ケアでは24%、在宅ケアでは20%にとどまっていた。また別の調査では、オーストラリアに住む成人の大半が、高齢者ケアを極めて重要な社会的サービスとしてとらえていた。また、納税者の多くは、高齢者ケアを支えるための増税に前向きだった。
- **オーストラリア: Care, Dignity and Respect(ケア、尊厳、尊重)(王立委員会最終報告書)(3/1)**
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/publications/final-report> (本文へのリンク)
 - <https://agedcare.royalcommission.gov.au/news-and-media/final-report-calls-fundamental-and-systemic-aged-care-reform> (メディアリリース)
 - 高齢者ケアの質と安全性に関する王立委員会の最終報告が、3月1日に議会へ提出された。この報告書で委員会は、高齢者ケアシステムの抜本的な改革を呼びかけている。これまでオーストラリアの高齢者ケアを規定してきた法律では、高齢者のケアニーズより事業者の資金提供要件に重点が置かれ続けてきたと指摘したうえで、新たな高齢者ケアシステムに向けて以下を含む148の提言を行った。
 - ◇ 高齢者を最優先に考えた、新たな高齢者ケア法
 - ◇ 高齢者の長期的なケア・支援・地域参加に向けた統合システム
 - ◇ 良質な高齢者ケアの提供・測定・報告
 - ◇ ケアの選択肢やサービスに関する最新で利用しやすい情報
 - ◇ 個々の状況に応じた新たな高齢者ケアプログラム
 - ◇ 回復や予防へ更に重点を置いたケア
 - ◇ 小規模で家庭的な居住モデル開発への支援増加
 - ◇ 高齢者の医療アクセス改善
 - ◇ 高齢者ケア従事者の専門化

効果的かつ透明性のある形での提言実施を支援するために、王立委員会では継続的なモニタリングや報告を提案している。また委員会はオーストラリア政府に対し、提言への回答を2021年5月31日までに議会へ報告するよう提案した。
 - **オーストラリア: Development of Aged Care Quality Indicators – Summary Report(高齢者ケアに関する質の指標開発:概要報告)(3/3)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/development-of-aged-care-quality-indicators-summary-report>
 - <https://www.health.gov.au/sites/default/files/documents/2021/03/development-of-aged-care-quality-indicators—summary-report.pdf> (全文)

- 全国で義務付けられている高齢者ケア質の指標プログラムが、2021年7月1日に更新される。この報告書では、更新版の指標を作成するまでの大規模な取り組みについてステップ(エビデンスのレビュー、関係者との諮問、専門家との諮問、指標案の省庁提出、指標の試験的運用など)ごとにまとめている。



SDGs 関連情報

- UNDESA: SDG Good Practices—A compilation of success stories and lessons learned in SDG implementation (First Edition)(SDG 優良事例:SDG の実施に関するサクセスストーリーと学び、第1版)
 - <https://www.age-platform.eu/publications/sdg-good-practices-first-edition>
 - <https://sdgs.un.org/publications/sdg-good-practices-2020>
 - <https://sdgs.un.org/sites/default/files/2020-11/SDG%20Good%20Practices%20Publication%202020.pdf> (全文)
 - この報告書では、SDG の実施に関するサクセスストーリーや学びの例を募集した結果をまとめており、世界各国から16の優良事例を紹介している。事例は地域ごとに整理されており、コロナパンデミックに関する内容も組み込まれている。事例募集の第2弾も行われており、これは2021年2月28日に締め切られた。